

開講日	2024年春期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	医学部研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 教授 山田敦朗 教授 永井幸代		

科目概要および期待される成果	【概要】発達障害という疾患は、最近では非常に身近なものになりました。発達障害は子どもだけでなく、おとなになっても続いたり、おとなになって初めて顕在化したりする例も少なくなく、ライフスパン全体を通して、診療を含めた支援が必要です。発達障害臨床では医療にとどまらず、子育て、教育、就労といった日常生活全般に深く関わる支援が求められます。発達障害児者の診療と支援に関わる方々に、いろいろな視点から学べるよう話題を提供します。【期待される成果】発達障害を診療できる医療機関は限られていて、受診まで長い待機期間が発生しています。いろいろな方に発達障害について学んで頂き、現状では限られている診療や支援のすそ野が広がるとよいです。
目標とする資格	精神科専門医または小児科専門医を持っている医師の方が子どものこころ専門医の資格を取得することを目的とします。また日本児童青年精神医学会の認定医、日本小児精神神経学会の認定医取得にも役立ちます。専門医取得中の医師や、医師以外の保健師、看護師、臨床心理士、公認心理士の、精神保健福祉士、教員、スクールカウンセラー、ケースワーカーなど発達にかかわる様々な方のスキルアップにも役立ちます。

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	全ライフステージにおける発達障害臨床	令和5年8月1日に名古屋市立大学病院にこころの発達診療研究センターが設立されました。ここでは、全ライフステージにおける発達障害の診療と研究を行っていきます。このセンターの役割をととも、おとなの発達障害の臨床を中心に話します。	4月9日	名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 教授 こころの発達診療研究センター センター長 山田敦朗
L-2	2	発達障害児への早期介入	発達障害児への早期介入の効果・意義や早産児の特性と発達障害の関連など最近の知見や我々の研究などを踏まえて話します。	4月16日	名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 教授 こころの発達診療研究センター 副センター長 永井幸代
L-3	3	発達障害児への乳幼児期の支援について～誤学習と未学習について～	早期診断の有用性については、診断後の支援体制が大きく影響してくる。乳幼児期に発達障害児に何が起きているか、また、就学後の適応状態の予測などを解説することによって、家庭と集団生活において有効な乳幼児期の支援について考えてみる。	4月23日	特別講師① 武庫川女子大学 発達臨床心理研究所 石川道子
L-4	4	不登校と心身症	不登校の子どもは年々と増加し、現在では中学生の約6%、小学生の約1.7%が不登校とされています。不登校の背景には発達障害や心身症が隠れていることが少なくありません。この講義では不登校ならびに心身症の子どもやその保護者の理解や支援に関して概説します。	5月7日	名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 講師 大橋圭
L-5	5	ペアレント・トレーニングからトラウマインフォームドケアへ	発達障害の診断やその周辺の子どもの大人との関係性は、子どもの「育ち」やその後の二次障害にも影響すると言われています。「育て」に役立つ保護者のペアレント・トレーニングの概要、保護者や支援者が子どもに安心安全を感じさせるためのトラウマインフォームドケアを取り上げます。	5月14日	名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 助教 山田理恵
L-6	6	子どもと青年への認知行動療法	発達障害を含む子どもと青年の不安や抑うつに対しても、認知行動療法を役立てることが出来ます。認知行動療法で期待できる効果、目の前の患者に合わせて適切に実施する上でのケース定式化、導入の工夫について学びます。	5月21日	名古屋市立大学大学院医学研究科 こころの発達医学寄附講座 講師(令和6年4月1日より) 坂田昌嗣
L-7	7	発達性協調運動症	発達性協調運動症(DCD)は、不器用、姿勢やバランスの悪さ、力加減やリズム(タイミング)の悪さなどを主訴とする発達障害であり、近年多くの注目を集めてきています。本講義では、DCDへの理解を深めることができるように、その特徴やメカニズムと支援について解説する。	5月28日	名古屋市西部地域療育センター センター長 宮地泰士
L-8	8	発達障害者支援センター	発達障害者支援センターは、発達障害者支援法に基づき、発達障害者・者への支援を総合的に行うことを目的に、都道府県と政令市に設置される機関ですが、地域の状況によって果たす役割は様々です。名古屋市の取り組みについて説明します。	6月4日	名古屋市発達障害者支援センター センター長 堀未来
L-9	9	てんかん・自閉症の遺伝的背景と発症機序	てんかん・自閉症は遺伝的背景の寄与の大きい疾患です。それらの詳細と、原因遺伝子モデルマウス解析による発症機序解明研究について紹介します。	6月11日	名古屋市立大学大学院医学研究科神経発達症遺伝学 教授 山川和弘
L-10	10	知的障害児・者の支援 知能検査について・ライフステージにそって	知的障害について、知能検査や療育手帳などについての総論と、どのタイミングでどのような支援や福祉サービスを受けることができるのかについて紹介します。発達障害全般にも応用ができます。	6月18日	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター-精神科 准教授 持田圭仁
L-11	11	子ども・若者の生きづらさと性教育	現在、子ども・若者を地域で包括的に支援する「若者自立支援ルーム」の所長に就いている。不登校、ひきこもり、障がい、虐待、ネグレクトなどの渦中にある若者たちに、誤って形成されてしまったステレオタイプの男女の差別意識、ジェンダーバイアスを解いていくための性教育実践の一端を報告したい。	6月25日	特別講師② さいたま市若者自立支援ルーム所長 金子由美子
L-12	13	発達障害とゲーム・ネット・スマホ ~デジタル機器とのつきあい方を考える~	発達障害のある人達は、多数派の人に比べて、デジタル機器の使用からの、よい影響も悪い影響も受けやすいと言われています。現代の情報通信技術とうまくつきあっていくための方法について、考えてみたいと思います。	7月2日	特別講師③ 愛知県医療療育総合センター中央病院 児童精神科部長(4月より、愛知県児童相談所) 吉川徹
L-13	15	セクシュアルマイノリティ(LGBTQ+)とセクシュアルリプロダクティブヘルツ&ライツ(SRHR)について学ぼう	性の発達、心身の発達による影響だけでなく、環境や社会の影響も受けて成長していきます。今回、セクシュアルマイノリティ(LGBTQ+)とセクシュアルリプロダクティブヘルツ&ライツについて学ぶことで、ご自身における性の健康と幸福について振り返る機会にもなれば幸いです。	7月9日	特別講師④ 京都市第二児童福祉センター診療所 所長 上野千穂
L-14	12	通じるという視点から見た自閉スペクトラム症	わたしたちは同じ情報を持っているからお互いにわかり合うことができます。持っている情報が違っていたらわかり合うことができません。この視点から自閉スペクトラム症を見ると関わり方が見えてきます。	7月16日	特別講師⑤ 日本福祉大学 社会福祉学部社会福祉学科 教授 牧真吉
L-15	14	なごや子ども応援委員会について	なごや子ども応援委員会は、常勤のスクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)等の支援職で構成され、学校現場に配置されています。子ども応援委員会の体制と取り組みについて話します。	7月23日	名古屋市教育委員会 子ども応援室 主任総合援助職 阪口裕樹(予定)